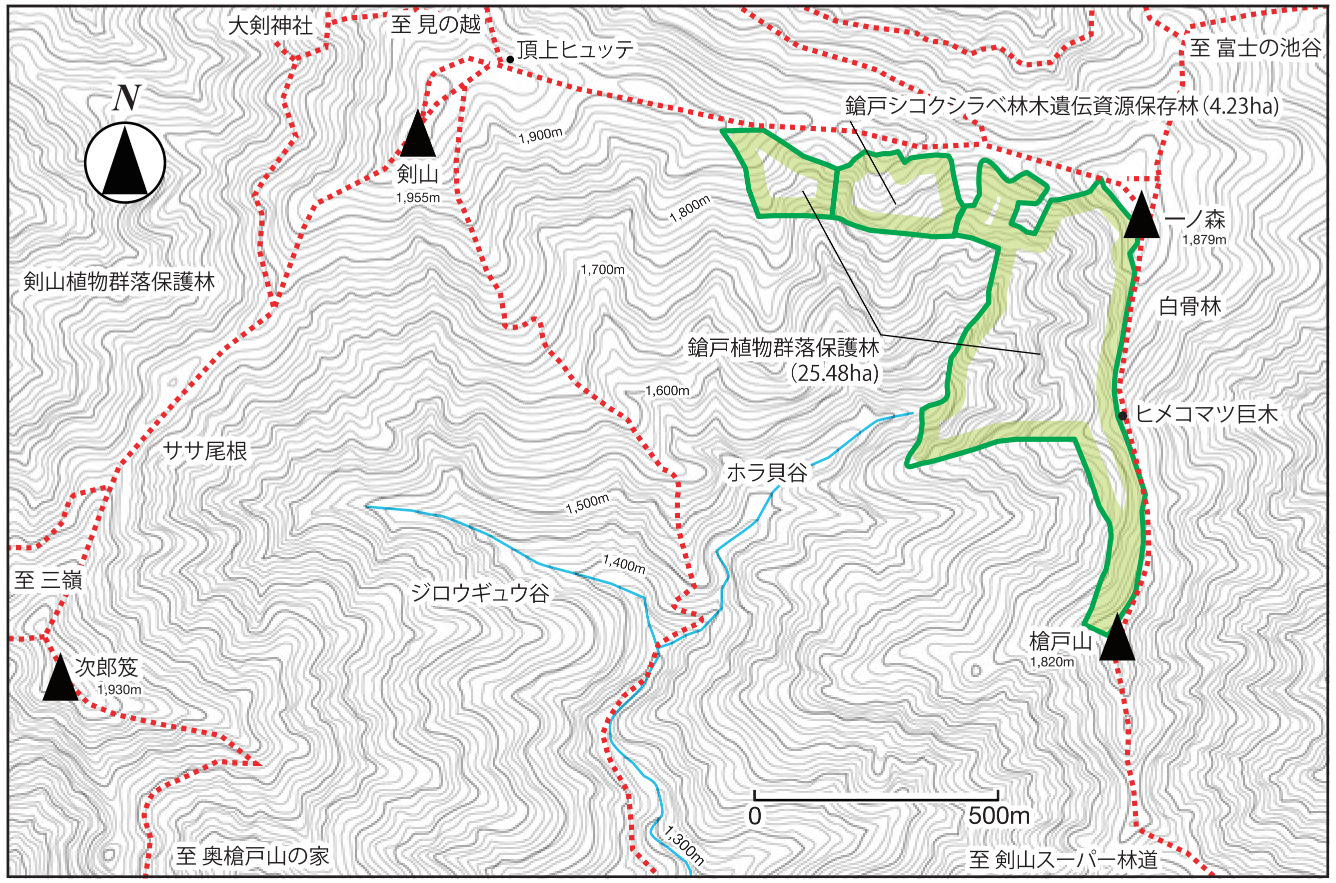
鎗戸植物群落保護林
鎗戸シコクシラベ
林木遺伝資源保存林

当保護林は、日本百名山の一つで修験道の山としても知られる剣山(1,955m)と一ノ森(1,879m)との稜線の南側に位置します。
鎗戸植物群落保護林はシコクシラベやヒメコマツ（ゴヨウマツ）、コメツガ、ウラジロモミなどの四国では限られた高標高地域にしか見られない亜寒帯の針葉樹林が広がっています。
また、鎗戸林木遺伝資源保存林では珍しいシコクシラベの純林を見ることができます。

写真：上空から見た保護林周辺の様子



❶シコクシラベ(7月)。最終氷期に南下したシラビソの遺存植物とされています。剣山系（剣山、一ノ森周辺）や石鎚山系（二ノ森、石鎚山周辺）、笹ヶ峰の標高約1,700mより上部の限られた箇所に生育しています。また、平成21年から平成24年にかけて徳島森林管理署が行った調査では、胸高直径4cm以上のシコクシラベが林木遺伝資源保存林内で11,212本確認されています。❷ヒメコマツ。植物群落保護林には写真のようなヒメコマツの巨木が点在しています。 ❸一ノ森の白骨林。保護林やその周辺にはヒメコマツやシコクシラベなどの白骨林が多く見られます。